

# 報告書

令和8年1月22日(木)及び23日(金)に開催された「今こそ再確認 今の家庭  
今のこどもの最新事例を現場から学ぶ」を受講いたしましたので、その概要を下記のとおり  
報告いたします。

令和8年3月27日

名取市議会議長 大久保 主計 様

会派名 日本共産党議員団  
代表 小野寺 美穂

## 記

- 1 研修期間 令和8年1月22日(木)～23日(金)
- 2 研修場所 京都 J Aビル
- 3 行程表 別紙のとおり
- 4 参加人員 2名  
〈氏名〉 小野寺 美穂  
笹森 波
- 5 研修内容 別紙のとおり
- 6 所感 別紙のとおり

## 日本共産党議員団会派視察研修会 報告書

参加者 小野寺美穂 笹森 波

日時 令和8年1月23日(金)①10時～12時30分 ②13時30分～16時

場所 京都JAビル

主催 地方議員研究会

研修テーマ 「今こそ再確認 今の家庭、今のこどもの 最新事例を現場から学ぶ

①～現場から視る家庭教育支援～ ②～現場から視る不登校支援～」

講師 MIKURU・MIRU代表 公認心理師 山下真理子氏

民間の不登校復学及び家庭教育の支援機関にて文部科学省家庭教育支援に関する検討委員を歴任してきた代表に師事。チーフ家庭教育アドバイザーを10年勤めた後、2022年に独立。完全オンライン支援を特徴とし、不登校をはじめとする登校に不安を抱える家庭から依頼を受け、家庭の力で復学を果たすためのアドバイスや保護者へのカウンセリングを行っている。学校だけに教育を押し付けず、家庭だけで悩みを抱えることがないよう、学校や地域をうまくはばたいていくことを目指している。

### 研修内容①

家庭教育支援の現状と課題について

1. 少子高齢化社会だからこそ求められる家庭教育支援
2. 家庭教育支援は「ひきこもり・孤独・孤立・ヤングケアラー・若者の自殺」などを予防
3. こども家庭庁の目指す「就学前の子どもの育ち」と「こどもまんなか社会」
4. 不登校、母子登校などの子どもを取り巻く課題への対応

### 研修内容②

不登校支援の現状と課題について

1. 増加の一途をたどる現在の「不登校」とは
2. 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策
3. これらの不登校支援の基準となるcocoloプラン
4. 保護者の声と不登校支援の実際

### 考察

#### 1. 家庭教育支援について

現代において地方自治体に求められている真の家庭教育支援と現状とはかなりの乖離があるのではないかと考える。単なる相談や傾聴にとどまらず、積極的な支援を行うためには、継続性は勿論のこと、教育や子育て、発達心理学等の専門性が必要とされるのではないかと。ボランティア的な要素が強い現状では、家庭それぞれに違う特性を持つ

支援のあり方をどう構築していくのか、また関わっていくのかという点について深めていくことが難しいのではないか。それなりの予算付けを行って取り組む必要性を強く感じる。

中でも、近年クローズアップされている「ヤングケアラー」に対する対応策については、少なくとも自治体において条例を制定するなど、その意識啓発に努められている。名取市においても取り組むべき課題と考える。

## 2. 不登校支援について

ついに35万人を超えた不登校。

不登校だけではなく、長期欠席者も把握できているか？欠席扱いにならない登校の課題に目が向けられているか？SC,SSWの勤務実態は適切か？多様な教育機会の確保に向けた取組は進んでいるか？等、研修のポイントとしての問いかけがあった。不登校になるきっかけは千差万別である。しかし、それに対応するのは学校であれ家庭であれ、人である。人が人に向き合って、解決していくしかない。それが復学であろうと、別の居場所探しであろうと、抱えている悩みや痛み、本人にも言語化できない思いなど、親子であってもなかなか難しい解決策を探らなければならない。不登校35万人からの将来的なひきこもりが社会的な課題という文言はよく目にする。それを本気で解決しようとするならば、人手を増やすしかない。予算付けもしなくてはならない。経済格差が学力格差といわれて久しいが、今や経済格差はすべての課題解決の障壁となっている。国の未来を担う世代を誰一人取り残さないことこそが、国の未来を築いていくことになると思う。